

国土交通大臣 殿

新空港線早期整備着手に関する要望書

港 区

新 宿 区

品 川 区

目 黒 区

世 田 谷 区

澁 谷 区

豊 島 区

板 橋 区

大 田 区

平素より、特別区政に対しまして、格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、首都東京の玄関口である羽田空港は、平成 26 年 3 月に発着枠が 44.7 万回に増加され、国際拠点空港として更なる機能強化が見込まれています。今般要望する新空港線の整備は、蒲田駅と京急蒲田駅間のわずか 800m を結ぶことで、羽田空港と都心・副都心部などへの公共交通アクセスの利便性を飛躍的に向上させ、今後の日本の経済成長に寄与するだけでなく、都市生活の利便性も向上させる重要なプロジェクトです。

新空港線は、平成 12 年 1 月の運輸政策審議会答申第 18 号において「平成 27 年までに整備着手することが適当である路線」として位置付けられており、現在では交通政策審議会や関係者間で検討が行われており、本年は答申第 18 号における整備着手の目標年であります。東京が利便性に富んだ国際都市としての地位を保つためにも、新空港線の早期整備着手が望まれているところです。

新空港線を整備することにより、東横線や副都心線などとの相互直通運転が可能となり、羽田空港と渋谷、新宿三丁目、池袋及び東京西部をつなぐ新たな広域交通軸が形成されます。また、JR 蒲田駅へのアクセスが容易になることで、大井町、品川方面へのアクセスが改善されます。空港アクセスを含めた広域的な公共輸送網が強化されることにより、東京圏の国家戦略特区が目標に掲げる世界で一番ビジネスのしやすい環境の整備にも大きく寄与します。

さらに、東日本大震災の経験から、首都東京を支える都市機能の維持・継続の必要性が高まっている中、新空港線を整備することで、空港と都心とを結ぶルート of 東部偏在を解消するだけでなく、迂回・代替ルートとしての機能を担い、都市機能の維持・継続のためのインフラの多重化機能も合わせ持つとともに複数のルートが確保されることで、通勤や通学における既存路線の混雑緩和にも寄与します。

国土交通省におかれましては、このような主旨をお汲み取りいただきまして、首都東京のさらなる発展の一翼を担う新空港線の早期着手に向けた主導的な取り組みをお願いするとともに、交通政策審議会や東京都、鉄道事業者等への働きかけなどに対し、特段のお力添えをお願い申し上げます。

平成 27 年 2 月 26 日

港 区 長

武 井 雅 昭



新 宿 区 長

吉 住 健 一



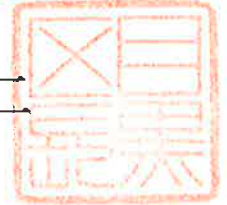
品 川 区 長

濱 野 健



目 黒 区 長

青 木 英 二



世 田 谷 区 長

保 坂 展 人



澁 谷 区 長

桑 原 敏 武



豊 島 区 長

高 野 之 夫



板 橋 区 長

坂 本 健



大 田 区 長

松 原 忠 義

